

ナシ黒星病が、多く発生しています

「幸水」果実が感染しやすい 7 月の防除を確実に実施しましょう

〔発令の内容〕

作物名：ナシ

病害虫名：黒星病

発生量：多い

発生地域：県下全域

〔発令の根拠〕

6 月下旬現在，発病果率及び果実での発生地点率は，平年より高い（表）。

（県全体としては，本病の発生が極めて多かった昨年に次いで高い。特に県南，
県西地域で発生が多く，県西では昨年と同程度の発生となっている。）

本病は，降雨により伝染するため，今後梅雨明けまでは黒星病の発生に好適な条件である。また，7 月は「幸水」果実が感染しやすい時期となることから，徹底した防除対策を行う必要がある。

表 果実での黒星病発生状況（6 月下旬調査）

地域 (調査地点数)	発病果率(%)			果実での発生地点率(%)		
	本年(順位 ¹⁾)	昨年	平年 ²⁾	本年(順位)	昨年	平年
県北 (4)	0.2 (6)	0.6	0.4	50 (4)	50	45
県南 (6)	0.6 (2)	0.8	0.2	50 (2)	100	24
県西 (9)	0.5 (2)	0.5	0.1	67 (2)	78	18
全県(19)	0.5 (2)	0.6	0.2	58 (2)	79	25

1) 過去 10 年間における本年値の順位を示す。

2) 1999～2008 年までの平均値。

〔防除対策〕

発病した葉及び果実は二次伝染源となるため，見つけ次第除去し，土中深く埋める。

果実肥大盛期となる 7 月は，「幸水」果実への感染が特に盛んになるため，DMI 剤の
散布を必ず実施する

本年はナシの生育および本病の発生経過が例年よりもやや早いため，DMI 剤の散布は
例年よりも早期に行うよう心がける。特に現在本病の発生が多いほ場では，7 月上旬
に DMI 剤の散布を行う。

薬剤散布量は、10a 当たり 300 リットルを目安にし、かけむらのないよう丁寧に散布する。なお防除は、周囲への飛散（ドリフト）に十分注意して行う。

ほ場の周縁部や、枝葉が混み合ったところなど薬液のかかりにくい部分に対しては、手散布等により補正散布を行う。

薬剤耐性菌出現回避のため、DMI（EBI）剤の年間使用回数は原則 3 回以内に抑えることが望ましい。

梅雨明けが遅いなど、7月下旬に降雨が多い場合は、果実への後期の感染を防ぐため、追加防除を行う。

農薬を使用する際は、農薬ラベル記載の使用方法、注意事項を確認のうえ使用する。

[黒星病の発生経過]

4月下旬の花そう基部病斑の発生は過去 10 年中 5 位であったが、5月下旬の発病果率では 3 位と高くなった。6月下旬現在、多発生した昨年に次いで高い発病果率となっている。

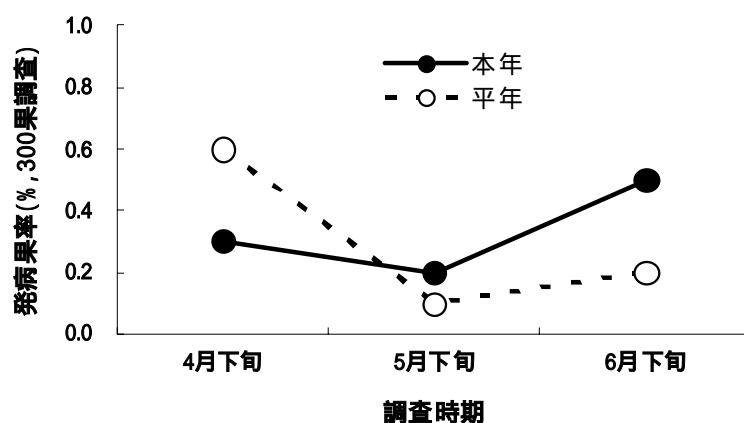


図 果実における黒星病の発生推移

4月下旬は、花そう基部を 300 個調査した。

平成 21 年度農薬危害防止運動実施中

農林水産省・厚生労働省・都道府県共催

農薬を使用するときは...

農薬ラベルを確認！周辺への飛散に注意！マスク，手袋，防除衣を着用！

農薬は鍵のかかる場所で保管しましょう！